

## 平成22年度事業計画

### 着地型旅行商品の企画と提案

#### 1. 着地型旅行商品の企画

(1) オフ期（冬期）における誘客を目的とする企画

① 「古事記」ゆかりの地を巡るコースの策定

2012年の古事記編纂 1300年に向け、「古事記」に由来する奈良の地を巡るコースを策定する。

② 冬期（1~3月）の行事・イベントを取り込んだ商品の企画

県内各地の節分行事、なら瑠璃絵などの伝統行事・イベントの紹介を軸とする「冬の大和路」の企画に取り組む。

(2) 「伝統行事を学ぶ」セミナーの企画・催行

奈良における伝統行事の歴史・意義・行法体制を学びつつ、各行事を体感して頂くことは本県の持続的な観光振興に繋がるものと期待されることから、「東大寺二月堂修二会セミナー」の継続開催に取り組むとともに、他の伝統行事についても情報の収集を図り企画提案に繋げるものとする。

(3) 「奈良のむかし町 まち歩き」商品の企画

関係市町村と連携し、橿原市「今井町」や御所市「御所まち」など、「奈良のむかし町 まち歩き」を題材にした学び、体験型商品の企画に取り組む。

(4) ウェディング企画「あをによしなら和婚」活用プランの策定

「あをによしなら和婚」を題材に、県内の古社寺での縁結び、周辺の観光スポットと組み合わせた「縁結びプラン」、「アニバーサリー婚プラン（10年、25年、50年）」の策定に取り組む。

(5) 潜在的な奈良ファンのリピーター化の促進、リピーターの訪問回数増大を図るため、「奈良ファン倶楽部」の会員に最新の情報と割引等の特典・サービスを提供するとともに事業内容の充実を図り、会員の定着と増大に繋げる。

【大和路「学びの旅」シリーズ】

① 大和路歴史文化講座

テーマ：「大佛以後ポスト・ダイブツ―後期平城宮の政治と文化」

・第35回東京講座 平成22年6月29日（日）

・第59回現地講座 平成22年9月1日（水）～3日（金）

② 奈良大和路歴史巡行特別ツアー 年6回実施

③ 解説付き特別拝観 年12回開催

- (6) コンベンションのエクスカージョンプランの企画  
奈良県全域を対象とするエクスカージョンの企画開発に努めコンベンション誘致に資する。

## 2. 効果的な情報発信と関係機関へのプロモーション

- (1) 広報活動の強化  
テレビ、ラジオ、新聞などメディア各機関への情報提供に積極的に取り組み、パブリシティとしての掲載を促進する。
- (2) 旅行会社への効果的な情報発信とプロモーション
- ① 大手旅行会社の募集型企画旅行(ホールセール商品)への組み込みに力を入れる。
  - ② 特定の顧客層(会員組織)や特定マーケットを対象に事業展開している旅行会社の募集型企画旅行・手配旅行への組み込みに引き続き取り組む。

(参考)

### 旅行会社における取り上げ方のパターン

- ・パッケージツアーそのものとして、あるいはその中の一部として組み込まれる。(ユニット販売)
- ・オプションツアーとして扱われる。
- ・パッケージツアーのパンフレットには掲載されるが、旅行会社は販売せず、着地の情報の一部として扱われる。

- (3) マスメディア各社との連携  
雑誌社等とのタイアップ企画に取り組む。
- ・旅行雑誌・婦人雑誌・週刊誌・歴史雑誌・食系雑誌・暮らし雑誌
  - ・ロハス系雑誌・モーター、サイクリング系雑誌・カード会社の会員誌
- (4) WEB サイトへの情報提供  
民間が運営するインターネット WEB サイトを活用し着地型旅行商品・体験交流プログラム・県内イベント等の情報を掲載する。
- ・ティーゲート「旅の発見」
  - ・JTBサイト「ウオレット」
- (5) 観光情報サイト「大和路アーカイブ」への掲載による情報発信  
旬のおすすめプラン、モデルコース等を観光素材に係る情報とともに掲載し、物語性を持たせた形での県内巡りの紹介に努める。
- (6) 奈良交通株式会社との連携  
一般財団法人奈良県ビジターズビューローが「監修」、奈良交通(株)が「旅行企画実施」の形による同社との連携を更に強固なものとし、着地型旅行商品の具体的な取り扱い増に繋げる。
- (7) 県外でのプロモーションイベントへの参加  
社団法人日本観光協会が実施する諸事業、広域連携事業へ参加し、広域観光ルートのPRに取り組む。

## コンベンションの誘致

2010年度は、引き続き県内の関係機関への誘致活動に軸足を置きつつ、大阪・京都・首都圏と潜在需要の大きい地域への誘致活動に更にウエイトをかけるものとする。学術会議や大会のみならず、スポーツ大会、並びに、より経済波及効果が見込めるMICEの誘致に活動の範囲を広げることとする。

### 1. 誘致目標

2010年度は200件の獲得を目標に置き、うち国際コンベンションの獲得を25件と定め、情報ネットワークの有効活用を更に心懸けることにより実現させるものとする。以下同様に5カ年に亘る獲得目標を掲げ、早め早めにプロモーションを開始するものとする。

(表) 誘致支援獲得目標件数 (5カ年に亘る各年度の誘致支援獲得目標)

	2010	2011	2012	2013	2014
国際コンベンション	25	25	30	30	30
国内コンベンション	175	185	190	195	200
合計	200	210	220	225	230

※ 国際コンベンション：参加者が30名以上で、参加国が2カ国以上

### 2. 誘致活動

誘致活動に際しては、「100人以上500人以下、会期3日以上」の会議の量的拡大に最大限の力を結集するとともに、企画力の発揮により国内大型コンベンション（会期2日以上、参加者500名以上）の獲得を計画的に果たすものとする。また、企画提案型の営業手法により幅広いマーケット分野の開拓を実現するものとする。

- (1) 県内の各大学への営業に際しては、全教授・准教授へのアプローチを年間の中で計画的に行うとともに、有力教授を予め特定し訪問頻度を高めるものとする。  
大阪大学及び京都大学を県外の有力関係先と特定し、ホームページ等により学会情報を抽出、キーとなる教授への訪問活動を集中的に行うものとする。
- (2) 他府県で開催されたコンベンションの中で「参加人員100名以上500名以下で会期3日以上」のコンベンションを選別し、次回以降開催の奈良県への誘致に向けてアプローチを開始する。
- (3) 文化的事業（書、絵手紙、お酒、きもの、写真、その他趣味の会）の主催団体の洗い出しを行い、各事務局へ折衝を行うものとする。
- (4) 国内外の企業インセンティブを誘致するため、各旅行会社のインバウンド部署や法人営業部署と連携を深め、協力して誘致に努める。
- (5) オフ期における宿泊者数を増やすために、吉野・宇陀や信貴山等の奈良市以外の宿泊施設と協力し、企業の研修会や学校の合宿の誘致に努める。

### 3. 企画提案力及び情報収集力の向上

- (1) 既存のコンベンション誘致プロモーションCDの一部を改修し、企画書と合わせて誘致ツールとして有効に活用する。誘致活動時には、独自に作成した『知っ得情報』を持参、身近なコミュニケーションツールとして活用する。
- (2) 奈良におけるコンベンションの魅力付けとして、商品企画部と連携を図りエキスカージョンの充実や新たなアトラクション、体験プログラムの発掘を行う。
- (3) 「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」に参画の9県（青森、山形、山梨、長野、福井、奈良、島根、高知、熊本）のコンベンション誘致機関と提携し、きめの細かいコンベンション情報の交換を行い、誘致ターゲットの拡充に努める。
  - ※ I ME（国際コンベンション見本市）には、相応の効果が認められないため参加を見合わせる  
こととし、コンベンション情報の収集は上述（3）の方法をはじめとする個別の活動の中で果たすものとする。

### 4. 開催支援内容の充実

- (1) 会期2日以上的大型国内コンベンション（500泊以上）の誘致強化を目的とする国内コンベンション宿泊助成金制度を新たに設ける。その運用にあたっては個別対応を原則とする。
- (2) 上記に該当するコンベンションでやむを得ず複数会場開催となる場合が想定されるが、参加者の利便性を考慮しシャトルバス助成金制度も併せて設けることとする。

### 5. オフ期のスポーツイベント誘致

- (1) 第90回の記念大会となる全国高等学校ラグビーフットボール大会の宿泊誘致に、獲得目標20校以上を掲げ、プロジェクトチーム間の連携強化、各都道府県予選に係るきめの細かい情報の把握、有力な人脈の掌握等々により活動を展開するものとする。
- (2) 平成26年度オープン予定の新プールを核とする生涯スポーツ拠点の活用を踏まえた生涯スポーツ大会の誘致に向け、本県の総合型地域スポーツクラブとの連携に努める。
  - ・シニア&子供水泳大会・ドッジボール大会・女子野球・子供相撲大会
  - ・その他子供のスポーツ大会
- (3) 比較的広い設備を必要としないフットサル大会やバドミントン大会等のスポーツ大会の誘致に努める。

### 6. 人材育成

専門的・実践的な知識を深めるためにJCCB主催のコンベンション実践セミナーを受講する。併せて、提携予定のコンベンション誘致機関との情報交換や交流を通じて知り得た成功事例や誘致活動の手法等を反映させ、企画提案力、折衝力の向上を図る。

## 7. インバウンド

拡大し続ける中国市場に焦点を当て、中国の特定の有力旅行会社に絞り込んで関係強化に努め、奈良滞在を組み込んだ旅行の商品化の提案に努める。加えて、その関係強化の中から、加速する個人旅行化（FIT化）市場への効率的なアプローチの方策を見いだすことに努める。

## 観光情報の収集と発信

### 1. テーマ別観光情報の収集と提供（観光情報システムの活用）

平成21年度に再構築した奈良県観光情報ホームページ「大和路アーカイブ」に掲載するため、四季折々の花だよりや観光イベントなどの情報とともに、特に平城遷都1300年祭開催期間中の県内各地の様々な特性を活かした新たなイベントや「秘宝・秘仏特別開帳」などの社寺の行事の予定などを県内市町村、市町村観光協会や社寺等の協力を得て収集し、併せて、マスコミ関係や観光客への問い合わせ等に対応する。

### 2. 誘致ガイドブックの制作配布による戦略的誘致策の展開

奈良県への効果的な誘客を図るため、「知れば知るほど奈良はおもしろい」観光キャンペーン展開として、県及び平城遷都1300年記念事業協会と連携のうえ、平城遷都1300年祭のイベントを主に紹介する「平城遷都1300年祭特集号」を発行するとともに、県内外に観光モデルコースや観光イベントなどを紹介する誘致ガイドブックを作成し、近鉄沿線、JR沿線、大和高原地域、県南部地域の魅力ある観光情報や県内各地の情報を広く提供する。

### 3. 会報誌の発行

観光・コンベンションに係る当ビューローの活動を広範に宣伝し、既存の観光情報の紹介や従来からの活動報告のみならず、新規作成した観光商品の宣伝やコンベンション誘致の促進等に役立つよう、販売促進ツールとしても広く活用するため、会報誌「いにしえのかぜ」を発行する。（年3回）

### 4. 奈良県観光インフォメーションセンターの運営

奈良市春日野町「奈良県観光インフォメーションセンター」において、主に外国人観光客に観光案内や観光資料等の提供を行い、利便性の向上を図る。

### 5. 「奈良大和路カレンダー」制作・販売

今年で15作目となる仏像カレンダーを制作する。平成21年度に制作した第14作「平城遷都1300年記念版『天平の輝き』」に引き続き、奈良の奥深い魅力を感じていただくため県内外で販売するとともに、観光客誘致活動にも活用する。

## その他

### 1. 全国広域観光振興事業への参画

社団法人日本観光協会が実施する、広域連携による観光振興（観光展の開催、観光資料の作成）、人材の育成（観光セミナー）等の事業に参画する。

### 2. 修学旅行の誘致促進

奈良県修学旅行誘致促進委員会に参画し、県内の宿泊施設との連携により修学旅行の誘致を促進する。また、新しく開拓された体験学習プログラムやお土産、中南和地域の情報等を盛り込んだ「（仮称）修学旅行ガイドブック」を作成する。

### 3. 各種行事等への協賛事業

若草山焼き実行委員会への参画や県内各種行催事への側面支援を行い、円滑な事業実施を推進する。

### 4. 観光事業功労者の表彰

今後の更なる活躍に期待し、様々な分野で奈良県の観光振興に尽力され、観光を通じた地域貢献に大きな役割を担っていただいた方々を表彰する。

### 5. ビジターズビューロー会員を対象としたセミナーの開催

国策として掲げられている観光と他産業との連携による地域の活性化は、地域の行政、産業、住民が高度なコンセンサスのもとで一体化し、観光の及ぼす波及効果を共通認識とするのが出発点である。ついては、共通認識を図る活動の一環として、当ビューローの会員を対象に、観光地経営に係るマネジメント力の強化に携わる講師を招聘しセミナーを開催することとする。本セミナーの開催により当ビューローの事業活動への理解と、県下において観光振興に携わる関係者の観光マネジメント力の強化に繋げることとする。

（1）実施月 10月～11月（理事会での第1回業務執行状況報告後）

（2）テーマ 地域ぐるみ観光 ～あるものさがし 磨いて発信～（仮題）

以 上